

## 平成 17 年度重点基礎研究及び政策課題研究の概要

企画部政策課が予算化している競争的資金による研究事業です。平成 17 年度は、重点基礎研究 3 課題及び政策課題研究 1 課題が採択となり、研究を実施しています。

### 重点基礎研究

| No. | 研究員   | 所属                 | 研究課題（概要）   |
|-----|-------|--------------------|--|
| 1   | 高橋智恵子 | 微生物部<br>呼吸器系細菌グループ | <b>VNTR 法を利用した結核菌型別に関する基礎的研究（創出型）</b><br><br>結核の制圧には感染源となっている患者の早期発見と治療が重要で、そのためには迅速な感染源の究明が必須である。その手段として、本研究では、最近注目され始めた VNTR 法（Variable Numbers of Tandem repeats）と言う分子疫学的解析法について検討する。VNTR 法は PCR とアガロース電気泳動のみで実施可能で、従来法（RFLP 法）と比べ格段に迅速且つ簡便である。この方法を確立することは、結核感染源患者の迅速な発見に有用性が高いと考えられ、本県の結核対策に寄与するところが大きいと思われる。 |
| 2   | 稲田貴嗣  | 微生物部<br>環境生物グループ   | <b>チリダニの生理・生態とアレルゲンに関する研究 -雌雄や発育ステージの違いがアレルゲン蓄積量に与える影響-（創出型）</b><br><br>アレルギー疾患を引き起こす最も重要なアレルゲンであるチリダニの雌雄や発育ステージの違いが屋内のダニアレルゲン蓄積量に与える影響を知るために、雌雄成虫と発育ステージのアレルゲン生産能力を明らかにする。それによって、チリダニの生息状況検査から得られるデータと季節消長などをもとに検査時後のアレルゲン蓄積量の推移を推測し、アレルギー患者がダニアレルゲンとの接触をさけるためのより有効な予防対策を行う。                                      |
| 3   | 小島 尚  | 理化学部<br>薬事毒性グループ   | <b>乱用トリプタミン系化合物の薬物常習性を惹き起こす依存形成に関する基礎的研究（創出型）</b><br><br>麻薬や覚せい剤などの薬物乱用が社会問題となっているが、未規制の麻薬や覚せい剤に類似したケミカルドラッグが出回っている。しかし、これら化合物はデザイナーズドラッグであるため、化学的性質や毒性・薬理作用はほとんど報告されていない。今年度ではトリプタミン系化合物の化学的性質と行動作用を中心に薬理・毒性作用の検討を行った。今回、トリプタミン系化合物の乱用時に問題となる薬物常習性を惹き起こす依存性形成について解明する。  |

### 政策課題研究

|   |      |               |   |
|---|------|---------------|---|
| 1 | 板垣康治 | アレルギー研究プロジェクト | <b>農水産物の低アレルゲン化に関する研究</b><br><br>今後、アレルギー原因食品として、さらに重要になると考えられる魚介類、野菜・果物類を研究対象として、低アレルゲン化に関する研究を実施する。すなわち、魚介類においては、酵素を使用したアレルゲンの分解やアレルゲンの性質を利用した物理化学的方法により水産食品からのアレルゲンの低減化を目指す。また、野菜・果物に関しては、アレルゲンの産生を制御する栽培法の確立や、アレルゲンを含まない品種の育成に応用することを目的とし、最終的には、医療機関との連携により、個々の食物アレルギー患者のアレルゲンを特定し、低アレルゲン化に対応した加工食品や調理法の提案など、食物アレルギーに関する情報提供を通して「食の安全・安心」に結び付ける形で、成果を県民に還元することを目標とする。 |
|---|------|---------------|---|

